

## Ⅱ-1 子どもの顔を見て話していますか

### エピソード

4歳の勇太くんは今日保育園であったことをお母さんに一生懸命話しています。

給食に出た大嫌いなピーマンを頑張って食べたこと、友達としたセミ取りが楽しかったこと……。でも、お母さんは夕飯の準備で忙しく背中を向けたまま「うん、うん」と返事だけをしています。

お母さんは、早く勇太くんに夕飯を作って食べさせ、お風呂に入れて寝かせなければと焦っているのです。生活のリズムが不規則になり勇太くんが体調を崩せば、お母さんは仕事を休まなければなりません。勇太くんの病気のために急に仕事を休むことで、周囲からの信用を失うことがこれまでも度々ありました。

時計を気にしながら夕飯を作っているお母さんは、勇太くんのおしゃべりにイライラ。「勇太、おもちゃは片付けた?」とか、「お手伝いしてね」とは話し掛けますが、勇太くんの問いには相変わらず背中を向けたまま、「うん、うん」だけしか答えません。ついに勇太くんに「ねえ、お母さん、僕の話聞いている?!」と聞かれたお母さんは、「今はお話は無理!」と断ってしまいました。



#### Work①

「勇太くん」「お母さん」役に分かれてこのエピソードをロールプレイで体験しましょう。

#### Work②

それぞれの立場になったとき、どんなふう感じたかを書いて発表しましょう

勇太くん



お母さん



Work③

ロールプレイや他のグループの発表を聞いて、感じたことやこれからやってみようと思うことを書きましょう。



アドバイス

大人でも子どもでも、自分に関心をもって話を聞いてもらうのはうれしいことです。手が離せず向き合えないときもありますが、「あとで」ではなく、「ご飯を作ってしまうまで待ってね」と具体的に話すことができます。たとえ短くても、ちょっとだけ家事の手を休めて“子どもの話をしっかり聞く時間”を確保してみましょう。子どもの話をしっかり聞くことは子どもの心を育てるだけでなく、親にとってもいろいろな発見や楽しみがあります。子どもとの会話を楽しんでみてください。



資料

言葉以外のコミュニケーションがとても大切です



子どもは親からの言葉以外の表情や声の調子なども感じながらコミュニケーションをしています。

## Ⅱ-2 早寝・早起き・朝ごはん

### エピソード1

陽一くんはお父さんと遊ぶのが大好き。でも、お父さんは帰りが遅いので、陽一くんは毎晩のように10時過ぎまで大好きなテレビ番組を見て待っています。そのせいか、陽一くんは朝なかなかスッキリ起きられません。食事にも時間がかかるので、お母さんは毎朝「幼稚園に遅れるわよ。早く起きなさい。ご飯を食べる時間がなくなるよ」などと言いながら何度も起こしています。

幼稚園に遅れたことが何回もあり、友達に「遅刻だよ」と言われてしまいます。幼稚園でも、何だか元気がなく、ぼーっとしていることが度々あるようです。お母さんは担任に「もう少し早く登園して、元気よく遊べるようになるといいのですが・・・」とされています。



### Work①

早寝・早起きのリズム作りのために困っていることや工夫していることをグループで話し合ってみましょう。



### 資料

\* 夜、何時頃に寝ますか？ 幼児の平日の就寝時刻（経年比較）\*



[Benesse 教育研究開発センター 第4回幼児の生活アンケート (1995-2010年調査)]

## エピソード 2

5歳の陽菜ちゃんは、保育園の給食の時間が大嫌いです。なぜなら、給食には陽菜ちゃんの嫌いな野菜や魚が出るからです。先生や友達に「陽菜ちゃん、少しでもいいから食べてみようね」「おいしいから食べてごらんよ」と声を掛けられても、絶対に口に入れようとしません。おなかをすかせた陽菜ちゃんは、おやつ時間が待ち遠しくてたまりません。甘いおやつや果物は大好きです。

今夜の夕飯は陽菜ちゃんの大好きな鳥のから揚げとコーンスープ。嫌いな野菜はありません。陽菜ちゃんは大喜びです。



### Work②

偏食を直すために困っていることや工夫していることをグループで話し合ってみましょう。

### アドバイス

偏食のない食事・早寝早起きという生活リズムを定着させることは、これからの成長期を迎える上で大切です。子どもに「好き嫌いをなく食べなさい」「早く寝なさい」と言うだけでなく、親も一緒に生活リズムを見直して整えてみましょう。



### 資料 プランターで野菜を育ててみましょう!

土作りなどの重労働は必要なし!プランターを置く場所さえあれば、気軽に挑戦できます。

嫌いな野菜も、自分で作ったものならおいしい!

インゲン、ピーマン、ミニキャロット、芽キャベツ、ミニトマト、ブロッコリー…。

プランターで育てやすい野菜はたくさんあります。

子どもと一緒にカレーやシチュー、サラダを作ってみてはいかがでしょうか。



写真はイメージです。



「親子で楽しみながら食育!」

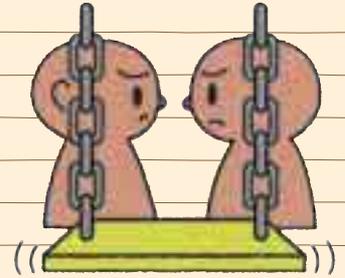
## Ⅱ-3 子ども同士のトラブルにどうかかわりますか

### エピソード

幼稚園のお迎えの時間です。園庭にはお迎えの母親たちが子どもを遊ばせながら話をしています。

健太郎くんはブランコの前ですっと順番を待っています。大好きなブランコに早く乗りたいのですが、普段から先生に「順番を守ろうね」と言われている健太郎くんは、あくのを辛抱強く待っています。ところが、友達の啓介くんは健太郎くんブランコを譲ろうとせずに横入りをし、何回でも乗ってしまいます。啓介くんの母親は他の母親とのおしゃべりに夢中で啓介くんの動きは目に入っていません。

とうとう我慢できなくなった健太郎くんが、啓介くんの服を引っ張ると倒れてしまいました。驚いた啓介くんは泣いて「健太郎くんがやった～」と母親に訴えました。健太郎くんも泣いて「だって…だって…」と自分のお母さんの所に走って行きました。



**Work①** 健太郎くんの気持ちを考えてみましょう。

**Work②** あなたが健太郎くんの母親なら、どんな対応をしますか。

健太郎くんに対して

啓介くんに対して

啓介くんの母親に対して

Work③

Work②の子ども同士のトラブルへのかかわり方について、考えたことを話し合ってみましょう。

アドバイス

トラブルが起こるのには理由があります。目の前の状況だけを見て判断したり、お互いに「ごめんなさい」を言わせて簡単に収束させたりするのではなく、双方の言い分をよく聞き、お互いが納得できるようにすることが大切です。親同士のわだかまりが残らないよう伝え方を工夫しましょう。



資料

規範意識の芽生えが育つために、幼児期に必要なこと 年少児(3～4歳)

「先生や友達との集団の生活を通してルールや決まりに気づいたり、それを守ろうとしたりする力(規範意識)が育つためにはどのような経験が必要と思うか」についての親の意識

選 択 肢	「最も必要と思う」				「次に必要と思う」			
	全体	保育者	教師	保護者	全体	保育者	教師	保護者
① 友達といざこざが起きたとき、自分の気持ちに折り合いをつけて遊びを続ける	3.1	1.2	7.0	2.1	0.9	0.3	2.3	0.6
② 遊ぶときには順番や決まりを知り、けんかをしないように遊ぶ	10.8	4.0	12.2	13.2	8.1	3.3	9.2	9.8
③ 保育者が常に遊びの中に入って、遊びのルールを知らせながら一緒に遊ぶ	32.2	28.0	32.7	34.0	21.5	23.9	23.8	19.1
④ 友達と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わう	29.3	31.7	27.4	29.1	20.3	15.2	21.7	21.9
⑤ 公共の乗り物を使ったり公共の施設へ出かけたりする	0.4	0.0	0.6	0.7	1.9	0.3	1.4	2.8
⑥ 自分の思いを主張する	5.9	11.0	5.0	4.0	8.6	15.2	8.7	5.6
⑦ 絵本や紙芝居を通してルールや決まりの大切さに気づく	5.4	3.7	3.4	7.1	18.9	19.4	11.8	22.2
⑧ 友達と思いが違ふ、思いを受け入れてもらえないなどで思うように遊べない	2.5	2.7	2.3	2.4	6.2	4.8	5.5	7.2
⑨ 遊びや生活の中で、ルールや決まりがあったほうが生活しやすいと感じる	0.9	1.2	0.9	0.7	2.2	1.2	4.0	1.8
⑩ 母親や担任など、信頼できる大好きな大人に何でも話す	9.5	16.5	8.5	6.7	11.4	16.4	11.6	9.0
計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

【愛知県幼児教育研究協議会 実態調査の概要(平成21年度愛知県調査)より】

## Ⅱ-4 家族みんなで子どもの自律を促しましょう

### エピソード

4歳の拓斗くんは、今日は何も買わないとお母さんと約束をして買い物に出掛けました。ところが店内に入ると、あたり一面にいいにおいが立ちこめています。拓斗くんがにおいの元に走って行くと、みたらし団子でした。

拓斗くんは買ってほしいと駄々をこねましたが、「今日は何も買わない約束だったね」とお母さんは取り合いません。「買って」「また今度ね」を繰り返しているうちに、拓斗くんはその場にひっくり返って泣き叫び始めてしまいました。それを見たお父さんは「団子1本くらい買ってやれば」とお母さんに言いました。すると、その言葉を聞いた拓斗くんはさらにおねだりを始め、お母さんは困ってしまいました。



**Work①** このエピソードで、お母さんが困ってしまったのはなぜでしょうか。

**Work②** あなたの家庭で、子どもの自律を促すための約束事や工夫を書きましょう。

**Work③** Work②をどのようにして決めましたか。

Work④

Work②で決めたことを子どもが守れるようにするには、家族はどうすればよいでしょうか。

アドバイス

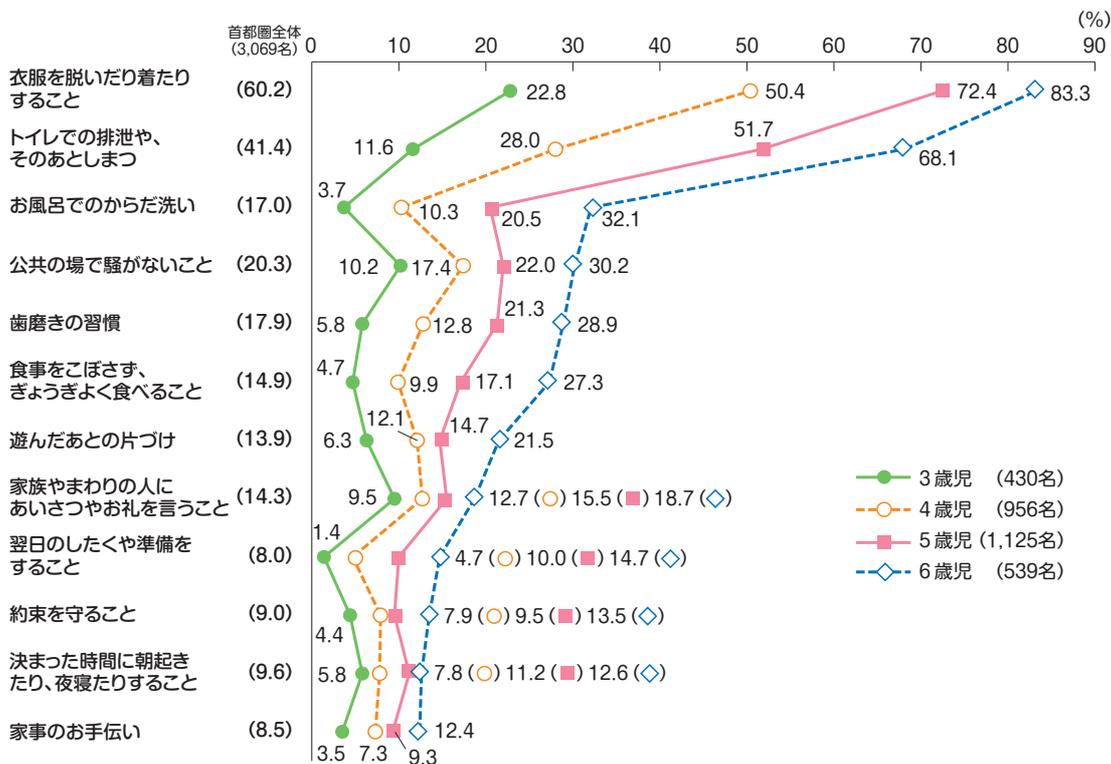
一見、身の回りのことや排泄など目に見える自立ができていようでも、心の自律はどうでしょう。行動面にばかり気をとられていませんか。下の図を見ても分かるように、お手伝いや約束事を守ることは、なかなか身に付かないようです。

子どもの自律に向けて、お手伝いや約束事などを家族全員で理解し、その日の感情でころころと変わったり、子どもの発達に合わない約束をしたりしないようにするとよいですね。



資料

\* 日頃の生活習慣（首都圏全体・子どもの年齢別）\*



注) 数値は「完全に一人で行える」の%。

[Benesse 教育研究開発センター 第3回子育て生活基本調査 (2008年) より抜粋]

## Ⅱ-5 言葉掛けを見直してみませんか

### エピソード

3歳の弘くんは、朝なかなか起きられません。お母さんは毎朝「さっさと起きて!服を着替えてご飯を食べなさい!保育園に遅れるでしょう?」と大きな声で起こします。

ある朝いつものようにようやく起きてきた弘くんは、なかなか身支度をしません。パジャマのまま台所のお母さんの足元で「お母さ～ん…」と弱々しい声を出しています。

お母さんは「昨日の夜、一回起こされたら自分ですぐに着替えてご飯を食べるって、お母さんと約束したでしょ!あら!またおねしょ!おねしょしないってさんざん約束したじゃないの!なぜ約束を守れないの?」と、すぐに弘くんを大声で怒鳴って責めてしまいます。弘くんにはたくさんの約束がありますが、なかなか守れません。



**Work①** どうして弘くんは約束を守れないのでしょうか。

**Work②** 約束を守れないことに対して弘くんはどのように思っているのでしょうか。

### アドバイス

この「約束」は弘くんも納得し、弘くんが一人でちゃんと守れるレベルのものでしょうか。

ここでお母さんの言う「約束」とは、「指示・命令」に当たります。「約束」という言葉に置き換えることによって、弘くんに責任を負わせ、約束を守れない弘くんが悪いということにしてしまっています。こうした複雑なコミュニケーションは、子どもを混乱させます。



## Work③

あなたは普段、以下のような言葉掛けをしていませんか。  
a～fの中で子どもを混乱させる言葉掛けはどれでしょうか。

- a お母さんに言われてお手伝いするようではだめよ
- b お友だちとは誰とでも仲良くしなさい、でも〇〇くんには気をつけなさい
- c (転んだ子どもに対して) 痛くないよ、痛くないよね
- d おなか空いたでしょ、疲れたでしょ、眠いに決まってるよね
- e 弘くんがニンジン食べないって、お父さん怒ってたよ
- f そんなことをすると保育園の先生に叱られるよ



## Work④

子どもに対する言葉掛けで気付いたことを書きましょう。

## 資料

これらはすべて危険なコミュニケーションです。

Ⓐ ダブルバインド(二重拘束)・コミュニケーション: a b

矛盾する2つのメッセージが同時に命令・禁止の表現で語られることを言います。どちらの命令に従っても許されず、いわばT字路の両端のどちらにも進めない状態です。

Ⓑ 先取りコミュニケーション: c d

相手が自分で感じたり考えたりする一歩前に、相手の感覚や考え・行動を決め付けていってしまっています。

Ⓒ 責任転嫁のコミュニケーション: e f

話し手が自分の考えや感情を言わないで、代わりに他者の意見として伝えるものです。

いずれも日常的に意識せず使ってしまうがちな表現です。これらは子どもを巧妙にコントロールすることに非常に優れていますが、子どもの自立のために成長に応じてこうした表現を少なくしていかなければなりません。普段の子どもへの言葉かけを見直してみましょう。

【参考・引用:黒沢幸子「指導援助に役立つスクールカウンセリング・ワークブック」金子書房】